



連携教育で学びをつなぐ

子ども達は、いきなり入園・入学してくるわけではない。小学校で言えば、子ども園の学びを経て、中学校で言えば小学校の学びを経て入学してくるわけである。つまり、入学してきた子ども達の資質・能力は、新しい学校生活をスタートする上でゼロではないのである。これは一例だが、小学校1年生の給食がスタートする時に、「牛乳給食」を実施している。これは一年担任に、「なぜ、牛乳給食を1週間も行うのか」と聞いたところ、「初めての給食なので、牛乳パックの開け方、たみ方を指導するためである」との回答があった。この回答に違和感を持ったため、併設する子ども園の給食の様子を見学し、園長とも給食について話を伺った。園長からは「今は小学校と同じような小さな牛乳パックに変えました」との話しを伺うことができた。園児は、自分で牛乳パックを開け、飲み終われば、自分でたたむことが出来ていた。子ども園の「学び」を小学校側が理解していなかったことと連携教育の大切さを痛感した。

幼保連携型認定こども園保育要領では、小学校との接続にあたっての留意事項として「イ幼保型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ小学校生活が円滑に行われるよう、略『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を共有するなど連携を図り、略『小学校教育と円滑な接続を図るよう努めるものとする』とある。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、達成目標ではなく方向目標であり、小学校の学びの素地となる部分である。園児にとって、環境が変われば、今まで出来たことが、一時的に出来なくなることもあるが、決してゼロからのスタートではないので、子ども園・幼稚園・保育園での学びを小学校の学びにつなぐという視点は重要である。

次に那覇市は、平成24年度から小中一貫教育に取り組み、市内の全学校で取り組んでいる。現在、第3ステージに入り、各中学校区のブロックで、共通実践事項を柱として小中一貫教育が充実してきている。授業づくりや生徒指導、特別支援教育など、小中で揃える取組がしっかり出来てきたことが、質の高まりにつながっていると思う。授業づくりを例にとると、小中学校の学習は系統性を重視した教科カリキュラムである。そのために、お互いが授業を参観し合い、小学校の学びが中学校のこの学びに繋がるのか、または、中学校の学びは、小学校のこの学びが基本となっているのかなど、小中一貫教育を通して系統性を両者が実感できれば、系統性を意識した授業づくりにつながっていくと考える。さらに、各ブロックで実施している「乗り入れ授業」も系統性を意識する上で効果的だと感じる。このように、校種間を超えて研究を深めることは、スムーズな接続となり、よりよい成長へとつながるのではないだろうか。

最後に、保育・幼稚園・子ども園と小学校、そして、小学校と中学校が、双方に子ども達の学びの連続性を意識した連携教育を推進していくことが必要だと考える。

6月 研究所事業予定

2(木)	初任者研修④	オンデマンド
6(月)	教育法規講座Ⅰ	真和志庁舎
8(水)	情報教育研修会②	オンライン
15(水)	中堅教諭等資質向上研修④	市内学校
16(木)	初任者研修⑤	オンデマンド
22(水)	教育法規講座Ⅱ	真和志庁舎
24(金)	ICT教育推進部会②	オンライン
28(火)	情報教育研修会③ Aグループ	オンライン
29(水)	情報教育研修会③ Bグループ	オンライン

118期教育研究員

新垣 研究員(幼児教育)
神崎 研究員(特別活動)
國場 研究員(ICT教育)



検証授業に向けて、所属校(園)に出向き、子どもの実態把握を行ったり、学校の先生方と情報交換を行ったりしています。また、指導案を作成し、研究の検証が可能かどうか、担当指導主事と確認しながら検討を重ね、推敲する日々です。

6月～7月

検証授業・実践

Google アカウントの活用 @naha-okinawa.ed.jp

先生方一人一人に、Google アカウントが配付されています。お手持ちのスマホと同じ感覚で、配付されたアカウントの Gmail チェックも日課の1つに入れてみてはどうでしょうか。各自でチェックする習慣を身に付け、連絡や提出物の確認に活用しましょう。

以前	現在
学校の共有メールアドレスやりとりをしている。	個人のメールアドレス直接やりとりができる。

※市内は Google、県は Open と使い分けをしてください。

各研修の様子

5月は、オンライン研修やオンデマンド研修での実施が多くありました。

概ね良好の声	課題と思われる声
オンラインでも他校の先生と協議が行えてよかった	学校内に居るので、子どもの対応で呼ばれたりする
学級の子どもの実態に合わせて視聴する時間を調整できる	オンデマンド視聴が勤務時間外になることがある
移動のための時間が無く、子どもと長く関われる。	機器の扱いに不慣れなため、戸惑うことがある。

※校内において研修者が集中して受講できるように、理解や配慮をお願いします。また、機器の扱いについては、教職員で学び合いをお願いします。